



# 品慢の自発サービス

## 高齢者がパン、野菜作り販売

デイサービスに通う高齢者が、食品や農作物を手ずから作って販売し、社会と関わる取り組みが各地で行われている。得意なことを生かした能動的な参加が生きがいになっているようだ。専門家は「何歳になっても挑戦できる共生社会を具現化する試みだ」と評価する。

堺市東区の「ふるさぽーとデイサービスセンター堺店」では、70〜90代の利用者約15人が5種類のメロンパンを作って販売、人気を博している。

「作るのも楽しいし、お客さんが買ってくれるのが何よりうれしい」。パン生地を丁寧にこねながら話すのは、94歳の小西トキエさん。「お世話してもらっただけだと退屈しちゃう。手を動かすと頭が活性化してほけないね」と笑顔。80歳の三村京美さんは「売り上げで仲間とお肉を食べるのが楽しみ。買ってもらう方には、ちゃんとした物を作らないとね」。



職員(中央)と一緒にメロンパンの生地を丁寧にこねる小西トキエさん(右)ら。堺市東区の「ふるさぽーとデイサービスセンター堺店」

パンの逸品ができたのを機に、商品化に向けた準備を進め、2019年春から販売を始めた。デイを運営する「ふるさぽーと」の統括所長、三村素女さんは「人の役に立つと元気になる高齢者は多い。緊張感を持って接客するのは刺激になる。社会とつながることは大切」と力説する。施設の敷地内にある畑で野菜や果物を栽培して販売するデイは、北海道七飯町の「いちご農園」。利用者はイチゴの他、キュウリやトマトなどの野菜を農家の助言を得ながら育てている。



収穫した山盛りのイチゴを抱えて笑顔の高齢者ら。北海道七飯町の「いちご農園」

## 何歳でも挑戦、生きがいに

「ストウナン」の中村久子社長は「農作業を通じてリハビリや運動にもなる上、お客さんから『おいしかった』『ありがとう』と言われることで、生きがいになっています」と話す。

高齢者が障害者と共に商品を作って販売するデイも。熊本市南区の「サンフラワー」では、施設の敷地で栽培して余った有機野菜を有効活用しようとして、ピクルスを作って販売している。収益は、高齢者の食事代の減免や、障害者雇用の促進に充てられている。

デイの運営会社代表、松本由美さんは「かつて料理をしていた人は、包丁を持つと生き生きとし、味についてアドバイスもしてくれる。作業をしながら昔話に花が咲くことで、脳が活性化するのは」と手心えを語る。

高齢期の社会参加活動と健康の関係を研究する千葉大予防医学センターの近藤克則教授は「高齢でも認知症でも、潜在的な能力がある。社会との関わり方を変えれば、その能力が発揮されることがあるため、大きな意義がある」と話している。



ピクルス作りに精を出す「サンフラワー」の高齢者たち。熊本市南区

### 献立のヒント

古い物に賞える共感 河口 典彦 66歳 岡山市南区古新田



## 埋もれた年金を探して 岡山の事例から 2

2019年、倉敷市在住のK子さん(68)から当事務所に年金相談の依頼のお電話をいただきました。テレビで年金探偵と呼ばれている私を知り、インターネットで調べたそうです。母親E枝さん(昭和4年生)が戦時中に広島陸

### 母が広島陸軍被服支廠で働いていた

## 記憶基に履歴申立書作

軍被服支廠で働いていた時の年金をもらえるかもしれないと、地元の年金事務所を訪ねた際「時効だからもうえない」と言われたそうです。納得いかない返答だったため、私に相談して見つからなければあきらめる覚悟で連絡をくださったとのこと。

E枝さんが親戚の会社で約5年間働いていた時の厚生年金をもらっていることをK子さんに確認し、次のように説明しました。「年金事務所の職員は、おそらく広島陸軍被服支廠の申請に必要な履歴申立書という書類を作成した経

験がなく、困った末に時効でもらえないような回答をしたのだと思います。当事務所ではお母さまのように旧日本陸軍・海軍の工場で働いていた方々の年金を申請し、もろってあげていきますので、書類さえ作成できれば可能性はあります」

すると、K子さん「戦時中、国のために大変な思いをして働いたと母から何度も聞かされているので、年金がもらえたらどんなに喜ぶか分かりません。お手数ですが、ぜひ調査をお願いします」と言われ、調査

に必要な書類を揃えました。2人から返送票には、広で働いたこと

E枝さんが代子さんが代た。1944月から終廠内を3カ服等を縫った。約8カが認められもらえた年が入金され